

りを促進する「みなとオアシス小樽登録証交付式」が行われました。堂故国土交通副大臣から小樽市迫市長へみなとオアシス小樽の登録証が交付され、みなとオアシス小樽運営協議会の西條文雪会長が事業概要を説明されました。みなとオアシス小樽は、3月にオープンした「小樽国際インフォメーションセンター」を代表施設とし、小樽港クルーズターミナルなどで構成されており、全国161カ所、北海道内では13カ所目の登録となります。

来賓の方々からは、小樽港への期待を述べられ、最後に来賓や関係者によりテープカットとくす玉開披が執り行われ、供用開始を祝いました。

今後、小樽港は様々なクルーズ船の受け入れが可能

な日本海側北部のクルーズ拠点へと発展し、クルーズ船の寄港回数の増加と乗客の地元消費拡大が期待されているところです。



小樽国際インフォメーションセンター

石狩湾新港開港 30 周年記念式典の開催について

石狩湾新港管理組合 企画振興グループ

令和6年6月、石狩湾新港は、関税法に基づき、外国との貿易が出来る国際貿易港として開港してから30周年を迎え、同月10日(月)、石狩湾新港開港30周年記念事業実行委員会(事務局：石狩湾新港管理組合)が、開港からの歴史を振り返るとともに今後の発展を祈念する式典を開催しました。式典には国会議員をはじめ、北海道議会議員、石狩湾新港管理組合議会議員、関係行政機関、港湾関連企業及び関係団体の皆様、約200名の参加がありました。

まず、実行委員会委員長である石狩湾新港管理組合管理者(北海道知事)鈴木 直道より「石狩湾新港は、札幌に最も近い港湾として、外貿定期コンテナ航路をはじめ、多くの船舶にご利用いただいていたところであり、また、周辺地域には760社を超える企業の皆様

に立地いただくなど、本道経済や道民の皆様の暮らしを支える物流拠点として成長してきました。さらに本港は、リサイクルポートとして、循環型社会の形成に向け、鉄スクラップなどの再生資源の輸出を支援するとともに、エネルギー供給拠点として、環境負荷の小さいLNG火力発電所のほか、バイオマスや洋上風力といった再生可能エネルギーを活用した発電施設が立地するなどゼロカーボン北海道の実現に向け、大きな役割を果たすことが期待されています」などと述べ、最後に「改めて関係する全ての皆様に深く感謝を申し上げます」と式辞を締めくくりました。

続いて祝辞では、函館税関小樽税関支署 日諸支署長が「石狩湾新港は開港して以来、国際貿易港として順調な発展を遂げ、輸出入額も令和4年には2千億円を突破しています。引き続き、通関続きの迅速化・効率化や様々な説明会を通じ、適切かつ円滑な通関を実現し、利用者の利便性の向上を図りながら、貿易の拡大と地域のより一層の国際化・活性化に貢献して参りたいと考えております」と述べました。次に、札幌出入国在留管理局 加藤監理官が「石狩湾新港は、北海道経済の中心であり、札幌圏の海の玄関であるばかりではなく、北海道経済と道民生活を支える生産と流通の拠点としての重要性は年々増大していると承知しており、当局においても、適正かつ円滑な出入国審査の実施により、石狩湾新港の更なる発展に寄与できれば



管理者式辞の様子

と考えております」と札幌出入国在留管理局 磯部局長の祝辞を代読しました。最後に小樽検疫所 三橋所長が「石狩湾新港では、小樽検疫所において年間 200 隻近い船舶の検疫や 300 件を超える輸入食品の行政検査を実施しております。また、港湾衛生協議会を通じて、石狩湾新港の港湾区域における公衆衛生の向上、衛生状態の維持、危険な感染症等の国内への侵入並びに蔓延の防止を目的とした活動も行っています。これからも皆様と連携を密にし、石狩湾新港から感染症を侵入させない取り組みを進めてまいりたいと思います」と述べました。

その後のセレモニーでは、国会議員や実行委員会委員などがステージに登壇し、くす玉の開披を行い、本港の開港 30 周年を盛大に祝いました。

続いて、石狩湾新港管理組合 清野振興部長より、「30 年の歩み紹介」と題し、本港の建設開始の様子をはじめ、第 1 船の入港や国際貿易港としての開港、コンテナ航路の開設のほか、石狩 LNG 基地の運転開始や東地区国際物流ターミナル整備事業の着工、そして本年 1 月の港湾区域内における洋上風力発電所の商用運転の開始など、港のトピックスを説明し、閉式とな

りました。

また、式典後には祝賀会が開催され、実行委員会特別顧問 迫小樽市長の主催者挨拶に続き、来賓の国会議員の皆様よりお祝いのお言葉を頂きました。同じく特別顧問 加藤石狩市長の祝杯で会が始まり、短い時間ではありましたが終始和やかな雰囲気となりました。締めには、先日の福山市にて開催の日本港湾協会総会で港湾功労者に表彰された石狩湾新港振興会 田岡会長の万歳三唱で、会場全体が本港の益々の発展を祈念し閉会となりました。

今年度実行委員会では、記念式典のほかに多くの市民がこれまで以上に本港に親しむとともに、港湾や物流への理解を深める機会として、8 月 10 日(土)・11 日(日)に石狩湾新港西埠頭特別会場において「石狩湾新港開港 30 周年記念フェスタ」を開催します。イベントでは、帆船日本丸を招聘し一般公開をするほか、ポートウォッチングやキッチンカーの出店、地元特産品販売を実施、HAMBURGER BOYS などの道内アーティストのライブも行います。

この帆船日本丸は、本港では平成 6 年の開港以来、実に 30 年ぶりの寄港となります。貴重な機会となりますので、子どもから大人まで楽しめる夏休みの思い出の 1 ページに皆様のご来場をお待ちしております。

詳しくは、開港 30 周年記念事業 WEB サイト(石狩湾新港管理組合の WEB サイト内)をご覧ください。

石狩湾新港は、本年で開港 30 周年という節目の年を迎えましたが、これからも先人の努力や苦労を後世に伝えつつ、着実に発展する港湾として地域の皆様とともに港づくりに取り組んで参ります。



くす玉開披の様子



帆船(写真は開港 20 周年時に寄港した海王丸)



開港 30 周年記念
事業 WEB サイトの
QR コード